上田西 準決勝へ

長野日大	００００００	０
上田西	００４６×	10

（５回コールド）

３回裏、井出のタイムリースリーベースによってホームに生還する一之瀬（写真左）撮影＝奈良本梓

7月18日（木）第101回全国高等学校野球選手権長野大会準々決勝が行われ、本校硬式野球部は長野日大と対戦。上田西は3回裏に押し出し四球や井出恭太郎（進学3年＝野沢）のタイムリースリーベースで4点を得ると4回には打線が爆発し一挙6得点を挙げた。結果、10対0（5回コールド）と長野日大を大差で下し、2年連続の準決勝進出を決めた。次戦は20日（土）に飯山高校と対戦する。勝利すれば2年連続の決勝の舞台進出となり優勝に期待がかかる。

千西一週

号外

号外（第57号）
発行
2019年
7月19日（金）
上田西高校
新聞委員会
編集局
編集局長：下谷梓

打線爆発 10得点

初回、上田西は、1番齋藤慶喜（進学3年＝上田第六）が四球を選び、すかさず盗塁を試みたが失敗に終わる。直後の2回表に、1死2、3塁のピンチを凌ぐと、3回の裏上田西は、2死満塁から「下のボールは捨てて浮いたボールはしっかり振る」ということを意識して打席に立ったという6番一ノ瀬文哉（進学3年＝鼎）が、粘った末に押し出し四球を選び先制点を挙げた。打席の途中で送られた伝令からは「リラックスするように」と声をかけられたという。すると、「インコースのストレートを狙っていた」という続く7番井出が、狙い通りのインコースのストレートをライト線に運び、上田西は一挙3点を追加した。続く4回の裏にも、1死満塁のチャンスで4番宮坂愛斗（進学3年＝上田第六）のセンター前への2点タイムリーヒットなどで6点を挙げた上田西は5回裏を0点で抑え、5回10点差とし、コールドゲームが成立した。

今回の試合について原公彦監督は、「球場が上田から松本に変わって選手は緊張していたが、試合前のメンタルトレーニングによってリラックスして試合に臨めた」と話した。自己最速の144キロを記録したエースの阿部巧雅（進学2年＝上田第六）については、「だんだん調子がよくなってきている」と話し、決勝に向けて順調に調整ができている様子が伺えた。

ボール見極め、「好球必打」

今大会好調を維持する井出
撮影＝長坂萌依子

準決勝を戦う飯山高校には今春、練習試合で対戦し7対0で勝利したそうだ。準決勝に向けて原監督は「力的にはウチが上。しっかり練習して臨みたい」と話した。準決勝、決勝について、主将の宮坂は「みんなで同じ方向を向いて全員で全力で勝ちにいく」原監督は「一個ずつ。最終的に優勝すればいい」と意気込みを話した。（松木萌愛）

阿部、日大打線を寄せ付けず

自己最速の144キロを記録

力投したエースの阿部
撮影＝長坂萌依子

この試合、先発投手を務めたのはエース阿部。立ち上がり、最初の打者を三振で抑えると、続く打者もショートフライ、三振とし、初回を三者凡退に抑えた。阿部はこの試合、「いいボール（ストレート）を自信を持って投げられた」と話すように、ストレートの走りもよく絶好の立ち上がりを見せた。2回表には、四球とツーベースなどで、1死2、3塁とピンチを招くが、「外野フライでも1点という場面だったので、そこは絶対三振を取る」と気持ちを込めた。結果、続く打者を三振、セカンドフライと打ち取った。3回、4回はともに三者凡退で抑え、流れを相手に渡さなかった。

右肩痛により春の大会はベンチを外れた阿部。この試合は、自己最速となる144キロを記録するなど力投し、4回を無失点、奪三振5、被安打1、四死球1とした。「力が入った」と本人が話すように高めに抜けるボールもあったがしっかりとエースの役目を果たした。

原監督は怪我から復帰したエースの調子を「8合目」と評価。阿部自身も「全て決勝のために合わせている」と話す。今大会初めての球場であったからか、制球に苦しむ場面もあったが「全ての打者から三振を取るという意識で投げた」とエースは今日の試合を振り返って話した。（中村泉咲）